

映画「こんばんはⅡ」鑑賞会と講演会 報告

(2019年10月5日(土)、札幌市教育文化会館)

1 鑑賞会・講演会の進行

①全国キャラバン開会宣言(司会・浦田修一さん)



②開会挨拶・講演者紹介(北海道に夜間中学をつくる会共同代表

工藤慶一さん)

遠友塾3年生の樋口友亀さんは「樺太で小学6年生の時に終戦、義務教育を受けられなかった。夜間中学が1日でも早く設置されることを望む」と書いています。また卒業したじっくりクラスの伊藤フサ子さんは、ポリオによる就学免除で、「一度でいいから学校の門をくぐりたい。文字が書けないから選挙にいけない」と訴えています。このような人達とともに30年間の札幌遠友塾の営みがあり、のべ2000名をこえる方たちが学んできました。



こうした活動に対し、2日前の10月3日、今年度の北海道新聞文化賞を札幌遠友塾が受賞するという通知がありました。また、9月25日札幌市議会第3回定例会で、長谷川教育長が「2022年4月に札幌市に公立夜間中学を開設する」と答弁しました。こうした動きは、2016年12月に公布された教育機会確保法によるものであり、今後は全ての県と全ての政令都市での公立夜間中学設立が目標となります。これを一日でも早く達成するため夜間中学の映画「こんばんはⅡ」が制作され、上映全国キャラバンが企画され、今日ここ札幌の地でスタートします。

ここに至るまで、全国の夜間中学も遠友塾も苦難の連続でした。2002年12月東京で開かれた第48回全国夜間中学校研究大会の「人権シンポジウム」で関本さんとの出会いがありました。このシンポジウムを経て、翌年2月の日弁連への「人権救済申立て」を行いました。関本さんは当時公立夜間中学である新星中学(現三宿中学)の教員で、この出会いによって夜間中学の情報・動き・教材などを北海道が入手できるようになりました。

当時遠友塾は札幌市民会館で授業を行っていましたが、会館取り壊しの危機に、札幌市との協議を重ねていました。2003年10月映画「こんばんは」の上映会が370名の参加を得て、札幌で実現できました。この時に初めて、森監督と電話で話し合うことができました。

「教育機会確保法」の3年後見直しに向けて、昨年の2018年7月に議員連盟の方々と国会内で集会が持たれました。その時公立夜間中学の開設に向け、川口・松戸・札幌の順番で発言し、4番目に戎(えびす)さんが発言し衝撃を受けました。また今年の3月、福岡での日韓識字交流で戎さんとの関係が深まり、戎さんを札幌に迎えるという話になりました。

映画出演者を紹介をします。

- ・戎さんの旦那さんである、戎智之（ともゆき）さんです。
- ・丸山中学校西野分校の教員である井口（いのくち）幸治さんです。今年12月、神戸で開かれる第65回全国夜間中学校研究大会の事務局長です。

来賓の方々をご紹介します。

札幌市教育委員会

- ・学校教育部長である相沢克明さんです。
- ・学校教育部教育推進課長である井上達夫さんです。
- ・学校教育部教育推進課学びのプロジェクト担当係長の柴垣幸治さんです。



③くす玉割

森康行さん 関本保孝さん 戎香里菜さん
工藤慶一さん 遠藤知恵子さん



④「こんばんはII」上映

⑤札幌市教育委員会 相沢学校教育部長挨拶

この全国キャラバンが札幌からスタートしたことに、改めて敬意と感謝の意を表します。また、このたびの札幌遠友塾の北海道新聞文化賞の受賞おめでとうございます。

「こんばんはII」では、夜間中学の生徒が真剣に学んでいる姿、学ぶ喜びにあふれている姿に心が打たれました。学びを取り戻す強い思い、今の学びが確かな未来につながっていくという希望を語る姿から、なぜ、学ぶのかという答をもらった気がいたしました。

私は社会科の教師として、山の手養護学校でスタートしました。そこでの日々の中で、生徒たちから「学ぶことは生きること。生きるとは学ぶこと。」を教えてもらい、「一瞬一瞬の関わりを大切にしながら、学ぶ今をいかに楽しむか」が、私の教育の原点になりました。（その観点に立って）今は行政の立場から、支援をしていきたいと思っております。

現在、2022年4月に札幌市に公立夜間中学を開設する、その準備を始めたところです。このプロジェクトに関わることをうれしく思っています。札幌市にふさわしい公立夜間中学開設にむけ、その基本計画を来年度中にまとめたいと考えています。



⑥森康行さん講演

16年前「こんばんは」を作った時は、Ⅱをつくるには夢にも思わなかった。「確保法」ができて、「夜間中学校と教育を語る会」から短い映画を作って欲しいとのこと。「16年たって夜間中学はどう変わったか？」外国の人が増えて、人数や構成が変わったかもしれないが、私にとって基本的なことは全く変わっていない。学ぶとはどういうことか、学校とはどういうところか、夜間中学がそのことを考える道筋を与えてくれる。



「こんばんは」は一つの学校の一つのクラスを撮った。今回はいろいろな人々を撮った。映画の中の人々が、なぜこんなに堂々と言えるのか、確信・信念を持って語っている。学ぶ中で獲得した言葉である。これは「こんばんは」「こんばんはⅡ」で重なる部分である。日本の学校教育はこれでいいのか、何で勉強するのか、を問いかけている。

私は1950年生まれ。1955年より高度経済成長期に入り、人材が必要という中で、競争主義がもちこまれた。「子供たちにとって学校は楽しいところか?」「学ぶことは嫌なことなのか?」「学校教育は正しかったのか?」と、受験のための勉強の中で思うことがあった。

夜間中学は全く違う。年令・生まれたところ、さまざまな形を持っている。8人とか12人とかの少人数教育、丁寧な授業に驚いた。(私のころは55人学級の8学級であった)先生方も一人一人の生徒をよく知っている。1960年代の写真集で、家庭訪問などの様子を見た。下町の写真・子供の働く姿・夜間中学での勉強等々-----夜間中学は世界に開かれた窓と言える。

夜間中学に集う人々-----いじめや精神的不安を抱える人、戦争による極貧、在日の貧しさを抱える人等。さらに近年日本に来た外国の人たち、映画の中ではまだまだ多くを語れていない。ミャンマーからの青年(残留孤児三世)、難民キャンプのこと、それ以上は言えない。カンボジア難民の伊藤久里寿那(クリスナ)さん(1972年生まれ)、ポルポト政権下のアンコールワットの大変な状況-----よく日本に来てくれた。世界の人たちと我々はどう生きていったらいいのか。夜間中学は、学ぶことは人間にとってどういうことなのかを問うている。

「学ぶことは、卒業や受験や実用のためではなく、学ぶこと自体が楽しい」「生きることは学ぶこと」という答えを、夜中・自主夜中が示している。夜間中学が果たしてきた役割は今後より輝くだろう。自主夜間中学が育ててきたものを、公立夜間中学の中にも取り入れていってもらいたい。

⑦関本保孝さん講演

当日配付されたレジュメ「夜間中学のこれまでとこれから」を基に講演。(別添資料参照)



⑧ 戒香里菜さん講演

「学ぶことは生き延びること」 死にかかるとほどの人生を歩んだ。今生きている。日本に来た時、だまされて売られてきた。売春させられると思い、必死で逃げた。地獄の人生だった。17年前、真冬の大阪の公園で過ごした。パスポートがないので、フィリピンに帰れない。淡路島の知人に助けもらった。夫と出会い1年後に、(フィリピンから連れてきた)息子の小学校の校長のところ连接到いかれ、兵庫県教委から「いつ面接にこられますか」と言われた。校長先生の紹介で多文化共生サポーターになった。(16年努めた)



夜間中学は知らなかったが、尼崎市の夜間中学にサポーターで行ったとき、さまざまな年齢・国籍の人が学んでいるのを見て、「私も行きたい」と思った。夫に泣きながら「学びたい」と言った。「家庭の協力があれば通ってよい」ということになった。淡路島から引っ越し後、そばの丸山中西野分校へ入学した。地獄の人生がかわった。青春時代にもどった。勉強だけでなく、いろいろな行事に参加して学生にもどった。夜間中学がきっかけで、夫にも子供たちにも、誰にも言えなかった過去を作文で書くことができた。小さな夢から大きな夢にかわった。夜間中学から、高校・大学にも行きたい。大学を卒業したら、国連で活動したい。私が見本になって、みんなを勇気づけられればと思う。

定時制高校を3年間で卒業した。たいへんだっただけど楽しかった。今、大阪市の建設専門学校に通っている。夜間中学では、苦手な数学は、先生に無理にお願いして因数分解等教えてもらった。そのおかげで、専門学校をやっている。図面も書くことができる。土木の現場で重機に乗っているが、女性としてできることがあることを示したい。日本人は簡単だとも思えないが、重機の資格がとれた。

学び直したい人に言いたい。夢を持ってほしい。学ぶことは自分の未来につながる。今48歳の私の夫が12年後に夜間中学で学ぶことを応援したい。

夜間中学で得た宝は他人にはぬすまれない。

⑨ 質疑・意見交換

中島さん(旭川に公立夜間中学をつくる会)

- ・映画「こんばんは」の撮影で、見城先生に関するエピソードを(森さんに)。

(森さん)困難を乗り越え、一つのことを貫き通

しておられる方のお顔はかくもと思われる(鑑真和尚に似ている)。一つのことを突き詰め、そこからいろいろと考える方法をとられ、いまだに、ひたむきにやっておられる姿はすごいと思っている(やわらかいのに芯が強い)。

- ・「死にたい」という不登校の生徒にとって戒さんの存在は大きな励みになっている。彼らへのメッセージをお願い(戒さんに)。



(戒さん)「負けないで学ぶこと、生き延びることが私の証」その姿を示していきたい。
人生を諦めないでほしい！！

内貴さん（遠友塾 1 年受講生）

- ・若い人で不登校を経験した人が多くなり、その対策が行き詰まるのでは？
精神的なサポートが大切だと思うが（関本さんに）。

(関本さん)「夜間中学校と教育を語る会」で出している『夜間中学の基本事項 Q&A』特に第 3 版に、義務教育機会確保法、文科省の基本指針等すべて盛り込んであるのでご覧いただきたい（宝の言葉がいっぱい詰まっている）。

教育機会確保法第 20 条に相談体制の整備が明確に述べてある。関係諸機関、民間の関係団体が情報を共有し総合的な対応を皆で支えていくことが大切。

⑩まとめの発言・最後に一言

(戒さん)

新たに外国から来た人・技能実習生等で、義務教育を終了していない人がいる。フィリピンの人の場合は、最近学校制度が変わったこともあるが、学歴の偽造がある。卒業証明書をとっても、形式卒業ということもある。

フィリピンのお母さん、子供たちが小さいし学校に行けないというが、行ける環境を作ってほしい。

(関本さん)

公立夜間中学を開設するにあたって考えてほしい事（市教委の存在を意識した発言）

(ア) 教員定数の確保

兵庫県は 8 名

東京は 7 名（日本語学級のある学校はさらに日本語担当教員 3～5 名）

松戸は専任＋常勤で 8 名 川口は 8 名に近い

1 校で 3～4 名では無理。教員の数は非常に重要である

(イ) 柔軟なクラス編成と柔軟な時間割の工夫を

東京では日本語が困難な生徒に対しては、日本語学級を設置し、その後に一般のクラスに入れている。柔軟な取り組みが必要。

(ウ) バリアフリーの実現

(エ) 広域的な受け入れ（周辺自治体からの受け入れ）

(オ) 就学援助の保証

法律的には 6～15 歳の生徒の保護者対象となっているが、自治体の努力で実施しているところがある。

(カ) 給食の実施（札幌市は中学の給食あり）

(キ) 全夜中研への加盟（加盟費・年 2 万円）

(森さん)

「こんばんは」のエンディングで荒川九中の生徒9人が一人一行ずつ作った詩がある。

- ・学校は面白いところです
- ・学校は何でも教えてもらうところです
- ・学校はちょっぴりつかれるところです
- ・学校は先生が親切です
- ・学校が一番いいところです
- ・学校は夢があるところです
- ・学校は宝物があるところです
- ・学校は勇気をつけられるところです
- ・学校は私たちの故郷になるところです

今の学校は、この詩に「ない」をつけている。

一人一人に目をひらいてくれていて、自分の人生を自分の足で切り開く基礎的学力を、生きる力をつくるのが、学ぶということである。

札幌の夜間中学では、そうであってほしい。

⑪パフォーマンス

関本さんの音頭で、全員で「全国・夜間中学 (Y)・キャラバン (C)」を唱和し、Y・Cを動作で表現した。



2 参加者

参加者数 157名

参加議員

衆議院議員	道下 大樹	北海道議会議員	畠山 みのり
北海道議会議員	木葉 淳	札幌市議会議員	前川 隆史
札幌市議会議員	丸山 秀樹	札幌市議会議員	好井 七海
札幌市議会議員	熊谷 誠一	札幌市議会議員	竹内 孝代
札幌市議会議員	石川 さわ子	江別市議会議員	干場 芳子
北広島市議会議員	山本 博己		

別添資料

映画「こんばんはⅡ」鑑賞会と講演会～札幌市教育文化会館

夜間中学の「これまで」と「これから」

2019年10月5日 関本保孝（元夜間中学教員・基礎教育保障学会）

1、夜間中学校の「これまで」

(1) 夜間中学～苦難の30年

夜間中学は敗戦後貧困から中学に通えない子どものため学校教育法施行令「二部授業」を根拠に学校長等が教育委員会を動かし開設された。

1960年代までは、主に学齢や十代後半の日本人生徒、1960年代末からは、かつて学ぶ機会が得られなかった成人の日本人や在日韓国・朝鮮人、元不登校やひきこもりの若者が入学した。また、1965年の日韓基本条約締結後は韓国帰国者、1972年の日中国交正常化以降は中国帰国者、1975年のベトナム戦争終結後の1980年頃からはインドシナ難民等が入学しました。2000年前後からは、仕事や国際結婚等で来日した外国人や家族が急増し、難民や脱北者等も入学している。また、無戸籍・居所不明の若者の入学もある。夜間中学は義務教育未修了者のかけがえのない学びの場として大きな役割を果たしてきた。

しかし、国からは積極的な支援を受けられず、1966年には行政管理庁が「夜間中学早期廃止勧告」を出し関係者に大きな衝撃を与えた。

しかし、この「勧告」は大きな反対運動を全国に広げることにもなり、荒川九中夜間学級では1967年に開設10周年記念として生徒の姿を描いた記録映画「夜間中学生」を制作。卒業生の高野雅夫さんは全国上映を行い、この取組みをきっかけに大阪等で新たに夜間中学が開設された。

(2) 全国各地での「自主夜間中学」の広がりと言連への人権救済申立

1970年代後半からは全国各地で「夜間中学を作る会」や「自主夜間中学」が作られ、夜間中学増設に大きな役割を果たしてきた（1976年に奈良で「うどん学校」作られる。現在、自主夜間中学は全国に約40団体ある。）

また全国夜間中学校研究会では、1976年大会以降、毎年国等への要望書を採択したが、この中で「各都道府県に少なくとも1校以上の夜間中学校設置」、1987年以降は「中学校形式卒業者も義務教育未修了者同様入学を保障すること」との項目も盛り込み、要望してきた。

全国夜間中学校研究会では、全国の自主夜間中学等の協力も得て「全国各地での夜間中学開設」を旨とし2003年2月に日本弁護士連合会に「人権救済申立」を行った。

その結果、2006年8月10日「学齢期に修学することのできなかつた人々の教育を受ける権利の保障に関する意見書」が国に対して出された。これは「学齢超過か否かを問わず義務教育未修了者は国に教育機会の保障を求めることができる」「国は迅速に全国調査を実施し夜間中学開設を含む実効性のある施策を実施すべきである」等の内容を含む画期的なものであった。

全夜中研では2008年大会で「すべての人に義務教育を！21世紀プラン」を採択し「何歳でもどの自治体に住んでいてもどこの国籍でも」基礎教育としての義務教育保障をめざした。

(3) 議員立法の取組と国の政策の大転換

しかし、夜間中学開設に関する大きな前進はなく、夜間中学未設置道県と市区町村の間でのたらい回しが続き、法的な裏付けの必要性が痛感され、2012年以来、議員立法成立に向け超党派

参加・国会院内集会を4回開催し成功を収めた。

全夜中研の要請を受け、2014年4月には、超党派の「夜間中学等義務教育拡充議員連盟」が設立され、議員立法に向け、大きく前進した。

2016年12月に待望の「義務教育機会確保法」（義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律）が成立し2017年2月に全面施行された。この法律では、「年齢・国籍等を越えた教育機会の保障」「義務教育未修了者への国・自治体の教育機会確保の責務」等が明記され、画期的なものとなった。

2、夜間中学校の「これから」

(1) 国は何を考えているか⇒「5年間で全都道府県・全政令市に一律に夜間中学開設」

文部科学省は、8月に「2020年度概算要求」を発表した。

- ・この中では2019年度の4600万円の3倍となる1億3200万円の概算要求をした。
- ・その中の”目玉”が「夜間中学新設準備・運営補助」（補助事業）である。具体的には、18カ所の自治体に500万円の補助を行うというもので、9000万円を計上。「準備2年、開設後3年の計5か年の補助事業を期間を区切って行うことで夜間中学未設置の43地域の設置を促す」と明記され、文部科学省は2020年度～2024年度の5年間で「全未設置県・全未設置政令市への夜間中学設置」を目指しているのである。

(2) 自主夜間中学・夜間中学を作る会等は、今何をすべきか

①新しい法律や通知等をよく把握する必要性あり

- 「学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の施行について（通知）」（2014年1月14日文部科学省）「4 特別の教育課程の授業時数について：(1) 日本語指導に係る授業時数は、児童生徒の実態を踏まえて適切に定めるものとし、特別の必要がある場合には、年間280単位時間を超えて指導することを妨げるものではないこと。（後略）」
- 「義務教育修了者が中学校夜間学級への入学を希望した場合の対応に関する考え方について」（2015年7月30日文部科学省通知）中学校を卒業していても不登校等で十分学習できなかった場合は、「夜間中学への入学可能」となった。
- 「義務教育機会確保法成立」（義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律）[2016年12月成立]
- 「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する基本指針」（2017年3月31日）「義務教育機会確保法」を円滑に実施するために、文部科学省が出した。これにより、夜間中学は「小学校・中学校・日本語指導の3本柱の指導」が認められることとなった。
- 第3期「教育振興基本計画」（平成30年6月15日閣議決定）○夜間中学の設置・充実
- 「日本語教育の推進に関する法律」成立（2019年6月）

②映画「こんばんはⅡ」制作と「全国夜間中学キャラバン」（2019年10月～2020年9月）

夜間中学校と教育を語る会では、「最低1県1校の夜間中学開設」を大きく後押しするため、2019年1月にドキュメンタリー映画「こんばんはⅡ（37分）」を完成。その上映会を全47都道府県で実施し、「夜間中学開設」の大きな山を作るため、「全国夜間中学キャラバン」の実施を決定した。

③「夜間中学は社会の宝」を社会全体の常識とし、多様性を大切にする社会実現を！